

第四十節の隠された歴史 - 第一号

預言の封印を解く：終末の時代、ユダの獅子、そして黙示録の最終局面

Jeff Pippenger

2024-09-06

黙示録第5章では、ユダ族の獅子は、御旨のままに神の言葉を封印し、またその封印を解くことに勝利したただ一人としてのキリストの立場を表している。1863年の反逆から126年後に当たる1989年、ユダ族の獅子はダニエル書第11章の最後の6節の封印を解いた。これらの節は1798年における教皇権の致命的な傷から始まり、その傷がどのように癒やされるのか、さらにその先にある教皇権への最終的な致命傷に至るまでの証言を示している。これらの節は終わるところから始まっている。すなわち、教皇ローマに対する裁きである。

その六節は、教皇権の致命傷が癒やされること、そして竜と獣と偽預言者の三者連合が世界をハルマゲドンへと導くさまを述べており、ハルマゲドンは四十五節で「海と栄光ある聖なる山の間」と特定されている。

アルファとオメガは、キリストが常に始めによって終わりを明らかにされるという御品性を表している。十四万四千人の改革運動は第三天使の運動であり、それは、その始まりによって前型的に予示されていた結びの運動で、その始まりとは第一天使と第二天使のミラー派運動であった。ミラー派運動は1798年の終わりの時に始まり、そこからダニエル書11章の最後の六節が始まっており、この運動は1844年10月22日の審判の開始で終わった。十四万四千人の運動は、アメリカ合衆国における日曜法で終わる。

1989年の「終わりの時」におけるその運動の始まりに、ユダの部族の獅子はダニエル書11章の最後の六節の封印を解かれ、そしてその運動の終わり、日曜法の直前に、彼はダニエル書11章40節の隠された歴史の封印を解かれる。ホワイト姉妹は、ダニエル書のどの部分の封印が解かれるのかについての注解において、1989年の封印の解明に言及するとともに、2023年7月に始まった封印の解明にも言及している。

封印された書はヨハネの黙示録ではなく、終わりの時に関するダニエル書の預言の一部であった。聖書はこう言っている。「しかし、ダニエルよ、この言葉を秘め、巻物に封印をせよ。終わりの時まで。多くの者が行き巡り、知識は増し加わる」（ダニエル書12:4）。その書が開かれたとき、「時はもはやない」との宣言がなされた。（黙示録10:6参照）ダニエル書は今や封印が解かれ、キリストがヨハネに与えた啓示は地上のすべての住民に伝えられることになっている。知識が増し加わることによって、終わりの日に立つための民が備えられるのである……。

「第一の天使のメッセージにおいて、人々は、世界とそこにあるすべてのものをお造りになった、わたしたちの創造主なる神を礼拝するように求められている。彼らは教皇制が設けた制度を崇敬し、ヤハウエの律法を無にしてきたが、この主題に関する知識は増し加わるであろう。」『Selected Messages』第2巻、105、106ページ。

1989年に「終わりの時」に関係していたダニエル書の箇所は、第11章の最後の六節であった。そして、十四万四千人の運動が終結に向かうにしたがって、封印が解かれるダニエル書の箇所は第40節の隠された歴史となり、それはアメリカ合衆国における日曜法に至るまでの、1989年からの歴史を表している。第40節の隠された歴史は、十四万四千人の歴史である。すべての預言者がその時期について証言している。

この箇所では、「終わりの日に立つために民を備える」知識の増加は、1989年に最後の六節の封印が解かれたことを表しており、さらに四十節の隠された歴史の封印が解かれることも表している。両方の歴史において、啓示は、教皇権と日曜法についての知識の増加があることを示している。十四万四千人の運動の始まりと終わりの双方において、知識の増加は、ダニエル書第十二章に示されているように、三段階の試しの過程を生み出す。

彼は言った。「ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。これらの言葉は終わりの時まで閉ざされ、封印されている。多くの者は清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには悟る者がいない。だが、賢い者は悟る。」ダニエル書 12:9、10

すべての聖なる改革運動と同様に、ダニエルが「清められ、白くされ、試みられる」として示した三つの段階は、まず神的な象徴の降臨という道しるべに始まり、次に成就しなかった予言による試練が続き、最後に、封印が解かれて増し加えられた知識を受け入れるか拒むかに基づいて形成される二つの階級の品性を明らかにする第三の試金石へと至る。十四万四千の運動の始まりにおいては、その三段階は2001年9月11日、続いて2020年7月18日、そして日曜法であった。その同じ運動の終わりにおいては、その三段階は2023年7月、真夜中の叫びのメッセージの到来、そして日曜法である。

神の民を立たせるためのメッセージで、2023年7月に封印が解かれたものには、いくつかの預言的真理の筋が含まれており、その中にはエゼキエル書三十七章の死に絶えた乾いた骨も含まれている。エゼキエルは二つのメッセージを提示している。第一のメッセージは骨を再び結び合わせたが、イスラエルが力強い軍勢として自らの足で立ち上がったのは第二のメッセージになってからであった。黙示録十一章の二人の証人は、聖霊に満たされたときに立ち上がった。

三日半ののち、神からのいのちの霊が彼らのうちに入り、彼らは立ち上がった。彼らを見た者たちには大きな恐れが臨んだ。黙示録 11:11

エゼキエルは同じ真理を教えている。

彼は私に言った。「人の子よ、立ち上がれ。私はあなたに語ろう。」そして彼が私に語ったとき、霊が私のうちに入り、私を立たせ、私は私に語りかける彼の声を聞いた。エゼキエル書 2:1、2。

シスター・ホワイトが「知識の増加によって、終わりの日に立つために民は備えられる」と言うとき、知識の増加は十人の乙女のたとえにおいて「油」とされ、その「油」は「神の御霊のメッセージ」や「聖霊」、さらには「品性」をも象徴している。

2023年7月から間もなく到来する日曜法までの間に、知識が増し加わり、それが神の民に命を与え、彼らは立ち上がる。彼らは、その時に封印が解かれたメッセージの「油」を持っていることを示して立ち上がる。彼らは、自分たちの器の内に聖霊を宿しているときに立ち上がり、また、神の印のために備えられた品性を持つときに立ち上がる。

2023年7月に始まった最初の試験段階に続いて、候補者たちが油を受け入れるか拒むかを選べる期間が設けられた。受け入れた者は封印され、間もなく到来する日曜法のときに旗印として掲げられる。油を拒んだ者は、強い惑わしを受ける。

その候補者たちは2023年7月に霊的な眠りから目覚めさせられ、その後、各自の恩恵期間が閉じられる前の最終試練の過程に直面した。その試練の過程は、獣の像の形成に関わる予言的な試練という文脈の中に置かれており、まさにその候補者たちが蘇って内にキリストの像を形作るべき時期にあった。その試練が成就すべき予言的構造は、1989年から日曜法に至る歴史である。その候補者たちが目覚めることができなかつたため、主は異端が入り込むことをお許しになった。

神はご自分の民を奮い立たせられる。ほかの手段が功を奏さないなら、異端が彼らの間に入り込み、彼らをふるいにかけて、もみ殻を麦から分けるであろう。主は、ご自分の御言葉を信じるすべての者に、眠りから目を覚ますよう呼びかけておられる。この時にふさわしい尊い光が与えられている。それは聖書の真理であり、今まさに私たちに迫っている危険を示すものである。この光は、私たちをして、聖書を熱心に研究し、私たちが取っている立場を最も厳密に吟味することへと導くべきである。神は、祈りと断食をもって、真理のあらゆる含意と立場が徹底して、そして粘り強く探求されることを望んでおられる。Testimonies, volume 5, 708.

すべての預言者は終わりの日々について語っている。ゆえに、この終わりの日々にあつて、2023年7月に、主はご自分の民を「目を覚まさせる」ことを試みられたが、その試みは失敗し、終わりの近さを警告するために、アドベントの歴史におけるローマの象徴をめぐる最初の論争が繰り返されるのをお許しになった。主はこうされたのは、「この時にふさわしい」「尊い光」が来ていたにもかかわらずである。2023年7月にもたらされたその光は、「私たちの目の前に迫っている危険を示す、聖書の真理」であつた。その光は、本来なら私たちを、「聖書の熱心な研究」と「私たちが保持している立場のきわめて批判的な検討」へと導くべきであつた。

ダニエル書11章の10節から15節には、第40節の隠された歴史が表されている。というのも、アルファとオメガは、その始まりによってダニエルの最後の預言の終わりを示しているからである。2020年7月18日の失望に至るまでの過程で、サタンは10節から15節をめぐる混乱を持ち込んだ。彼は、この章の冒頭が章の終わりを示す鍵であることを知っていたからである。その後、第14節に関する当初の論争が提起された。

「私たちが彼の策略を知るようになることほど、大いなる惑わす者が恐れるものはない。」大論争、516.

それらの聖句の意味と目的を混乱させようとするサタンの試みがあること自体、それらが現在、十四万四千人の中に数えられる者となる候補者をふるいにかけている試練の過程の重要な一部であることを明らかにしている。ホワイト姉妹は、ダニエル書11章に表

されている、1798年の「終わりの時」以前に成就した歴史が、最後の六節で繰り返されることを強調している。

「私たちには無駄にできる時間はない。困難な時代が私たちの前に迫っている。世界は戦争の機運にかき立てられている。まもなく、預言に語られている苦難の出来事が起こるだろう。ダニエル書第11章の預言は、ほとんど完全に成就しようとしている。この預言の成就として起こった歴史の多くが繰り返されるだろう。」 Manuscript Releases, 第13号、394.

1節から39節に示されているすべての歴史は、この章の最後の6節で繰り返されていると私は主張する。また、1844年10月22日に始まった審判が結末に至る歴史、すなわち終末時代の歴史は、二つの主要な預言的期間によって示されていると主張する。第一の期間は神の家に対して行われる審判を表し、その後、神の家の外にいる者たちに対して審判が行われる期間が続く。第一の期間は1989年に始まり、アメリカ合衆国における日曜法で終わる。これは第二の期間の始まりを示し、その第二の期間はミカエルが立ち、人間の猶予期間が閉じられるときに終結する。さらに、40節の隠された歴史も1989年に始まり、41節、すなわちアメリカ合衆国における日曜法で終わる。

それは、同章の第10節から第15節にあるのと同じ歴史です。その歴史は、1798年に終わりの時が始まってから、1844年10月22日に審判が始まるまでのミラー派の歴史と並行しています。その二つの歴史は、キリストの誕生に始まり、十字架で終結した預言的な歴史とも並行しています。

1989年に始まる歴史には、2001年9月11日に始まった試練の期間が含まれており、それは1840年8月11日に始まった試練の期間と、キリストの洗礼において始まった試練の期間によって型示されている。獣の像の形成は、いくつかの預言的歴史の系列によって型示されてきた。その同じ時期の表象の一つが、2001年9月11日に始まり、間もなく到来する日曜法において完了する十四万四千人の封印の時である。四十節の隠された歴史は、1844年10月22日から1863年の反乱に至る系列と重ね合わせることもできる。

1844年10月22日は第三の天使の到来の日となった。他のどの預言の天使の到来と同様に、彼には食べるべきメッセージが託されていたが、そうはならなかった。そして、ミラー運動は1863年に先立ってフィラデルフィア的なものからラオデキア的なものへと変わり、1863年には正式に「セブンスデー・アドベンチスト」の名を名乗って、今日に至るまで反逆の荒野をさまようようになった。1844年から1863年に至る歴史は、十四万四千人の中に加わるようにとの召しを拒む者たちを表している。彼らは、ダニエル書12章の悪しき者、エレミヤ書の嘲る者の集会、ヨハネの黙示録のサタンの会堂、そしてマタイによる福音書の愚かな乙女たちである。

キリストが「預言者ダニエルによって語られた『荒廃をもたらす憎むべきもの』」として示された警告は、その後続く破壊と離散に先立って逃れるよう促すものを出している。紀元66年、ローマの将軍ケスティウスが、異教ローマの時代のキリスト教徒に対してその警告を成就した。第一世紀に使徒パウロは、教皇ローマの時代に苦難を受けることになるキリスト教徒のために、同じ警告を書き記した。安息日遵守者に対して都市を離れて田舎に住むよう促す警告は1888年に与えられ、これは日曜日を国民の休日として制定

しようとする最初の試みであるブレア法案と同じ年であった。ブレア法案こそ、キリストが言及されたダニエルの「荒廃をもたらす憎むべきもの」の成就における、退避の警告であった。

紀元66年のケスティウスの場合と同じく、ブレア法案は神の摂理により撤回された。ホワイト姉妹が双方の歴史において黙示録18章の天使の降臨を示しているの、1888年は2001年9月11日を予表している。終末時代に都市から逃れるようにとの警告は、2001年9月11日に効力を発した。したがって、1888年のブレア法案は2001年の愛国者法を予表していた。2001年9月11日に降臨した天使は、黙示録18章の最初の三節において最終警告のメッセージを宣言しており、この最終警告のメッセージは第三天使のメッセージでもある。たとえ14章において第三天使によって表されているメッセージが18章のそれと同じ真理の表現ではないとしても、重ね合わせて見ればそれらは同じ警告メッセージである。

予言者ダニエルが語った「荒らす憎むべきもの」は、キリストが与えたしるしであり、御自分の民が身を守るためにいつ逃れるべきかを示すものだった。これは警告のメッセージであり、ゆえに最後の警告のメッセージでなければならないが、『黙示録』14章および18章に示されているメッセージとは異なる言葉で表現されている。エレミヤ書15章16節に始まる叙述は、その警告と試練のメッセージと同じ預言的期間に当たる。それは、エレミヤが神の言葉を食えるときに始まり、天使が降りて来るときに起こる。ニューヨーク市の巨大な建物が崩れ落ちたときに天使が降りて来たのと同様に。

エレミヤが「あなたの言葉が見いだされ、私はそれを食べました。あなたの言葉は私の心の喜び、楽しみとなりました」と宣言するとき、彼の言葉は、ダニエル書1章における食事に関する最初の試練と、黙示録10章でヨハネが天使の手から書を取ってそれを食べる出来事を表しています。天使が到来するとメッセージを食べることが始まり、また、試練の預言の封印が解かれます。天使が到来すると第一の試練の期間が始まり、その期間は第二の試練の期間が始まると終わり、ミカエルが立ち上がると第二の試練の期間が終わります。

天使がやって来ると、後の雨が降り始める。

後の雨は神の民の上に降り注ぐ。力ある天使が天から下ってきて、全地はその栄光で照らされる。『Review and Herald』1891年4月21日。

エレミヤのいにしへの道を歩む者たちが、後の雨を受ける。

主はこう言われる。道の分かれ道に立ち、見渡し、昔からの道、どこに良い道があるかを尋ね、その中を歩め。そうすれば、あなたがたは魂の安らぎを見いだす。しかし彼らは、「私たちはそこを歩まない」と言った。また、私はあなたがたの上に見張り人を立て、「ラッパの音に耳を傾けよ」と言った。しかし彼らは、「私たちは聞かない」と言った。エレミヤ書 6:16、17。

「見張り人」が吹き鳴らす「ラッパ」は、ジョーンズとワグナーが1888年に提示したラオデキアのメッセージである。

声を限りに叫べ、ためらうな。ラッパのようにあなたの声を上げ、わたしの民にその背きを、ヤコブの家にその罪を告げよ。イザヤ書58章1節。

2001年9月11日、十四万四千人に印を押すことが始まった。ラオデキアへの警告のメッセージが告げられた。

「A. T. ジョーンズとE. J. ワグナーによって私たちに与えられたメッセージは、ラオデキアの教会への神のメッセージであり、真理を信じると称しながら、神から授けられた光を他者に映し出さない者には災いあれ。」『1888年資料』1053。

ラオデキアへの警告は、ラオデキア的なセブンスデー・アドベンチスト教会が耳を貸そうとしない、エレミヤの見張り人のラッパの響きである。それは、間近に迫る日曜法に先立ち、都市から田舎の地所へ逃れるようにという警告である。

これらのさまざまな預言の筋道について私が今述べたことは、あなたの識別力を喚起し、これから書こうとしていることを本当に吟味するよう促すための試みでした。おそらく、獣の像および獣に対する像の最も重要な特徴は、終末の時代にそれが二度形成されるということです。最初はアメリカ合衆国で、その後、世界の諸国で。

このローマの像に関する預言的な試しの過程を乗り越えるためには、獣の像および獣への像に関連するいくつかの預言的特質を正しく適用する必要があります。獣の像の試みの期間に関する第二の重要な要素（これは複数の証しによって示しうる）は、十四万四千人の封印がアメリカ合衆国における獣の像の試みの期間になされること、そして世界の諸国における獣の像の試みの期間が、その日曜法（321で表されている）の時点でなおバビロンにいる神のほかの子らが困いに集め入れられる時である、ということである。

獣の像は、互いに結びついた二つの特定の試練の時期を表しており、その二つの試練の時期はまた、黙示録第7章の十四万四千人の最終的な集めと、それに続く同章の大群衆をも表している。

日曜法において、アメリカ合衆国は黙示録十三章十一節にあるとおり、竜のように語る。次いで、それは全世界の諸国民を欺くために出て行き、諸国に対して、アメリカ合衆国がいま行ったのと同じように、彼らもまた世界的な獣の像を造るべきだと言う。コンスタンティヌスの321年の日曜法によって象徴される日曜法から始まるこの期間は、最後の国が教皇ローマに屈服する時、すなわち538年の日曜法が象徴されるところで終わる。というのも、十三章においてアメリカ合衆国は、獣の像に生気を吹き込み、語らせる力を持っているからである。その期間は321年の日曜法に始まり、538年の日曜法で終わる。

2001年、アメリカ合衆国政府は「口にして」愛国者法を法律として制定した。

次回の記事でこの研究を続けます。